

令和7年度
中学校第2学年
国語

注意

1 「始め」の合図があるまで、冊子を開かないでください。

2 先生の指示があつてから、組、出席番号、氏名を書いてください。

3 問題は、1ページから13ページまであります。

4 答えは、全て解答用紙の所定の欄らんにはっきりと書いてください。

組	出席番号	氏名

1 次の一から**四**までの問いに答えなさい。

一 次の文の――線部のひらがなを漢字で書いたときに、同じ漢字であるものを、あとの**1**から**3**までの中から**一つ**選びなさい。

彼は、真にせまるような話をした。

1 すばらしい演奏にはく手を送る。

2 船が港に停はくしている。

3 この映画はとてもはく力がある。

二 次の文の――線部のひらがなを漢字で書いたときに、同じ漢字であるものを、あとの**1**から**3**までの中から**一つ**選びなさい。

決勝まで進み、せき敗した。

1 別れをおしむ。

2 くやしい思いをする。

3 失敗をおそれる。

三 次の文は、いくつかの単語からできていますか。その数を答えなさい。

新鮮な魚を手早く調理する。

四 次の文について、――線部の二つの文節どうしの関係は何ですか。適切なものを、あとの**1**から**4**までの中から**一つ**選びなさい。

昨日、祖母から家に絵はがきが届いた。

- | | | | |
|-----------------|--------------------------------------|----------------|------------------------------------|
| 1 主・述の関係 | 2 修飾・被修飾 <small>ひ</small> の関係 | 3 並立の関係 | 4 補助 <small>ほすけ</small> の関係 |
|-----------------|--------------------------------------|----------------|------------------------------------|

鈴木さんたちは、総合的な学習の時間に、職場体験学習に取り組んでいます。この時間は、職場体験の訪問先にお礼の気持ちを伝える方法について、グループごとに話し合っています。次は、鈴木さんのグループの【話し合いの様子の一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの様子の一部】

司会

それでは、職場体験の訪問先にお礼の気持ちを伝える方法について話し合いを始めたいと思います。

鈴木

私は、手紙がよいと思います。一年生のときに、小学校に読み聞かせのボランティアにいったことがあるのですが、そのときに小学生からお礼の手紙をもらってうれしかったからです。

田中

私は、電話がよいと思います。電話のほうが、自分の気持ちが相手に伝わりやすいと思うからです。

石川

私は鈴木さんと同じで、手紙がよいと思います。私も手紙をもらったことがあるのですが、相手の思いが伝わってきてうれしかったです。もらった手紙は、今も大事にしています。

山田

①先ほど、田中さんが、「電話のほうが、自分の気持ちが相手に伝わりやすい」と言いましたが、それはどういうことでしょうか。

田中

電話だと、言葉だけではなくて、声からも思いが伝わるといふ特長があるからです。同じ内容を伝えるとすれば、電話のほうが、自分の気持ちが生き生きと表現できると思います。

山田

確かに、電話だと時間を共有しているので、声から相手の表情まで想像できますよね。その点では、手紙より電話のほうがよいといえるかもしれません。

石川

電話のよさも分かるのですが、私は、やはり手紙がよいと思います。理由は二つあります。一つは、もらったときの喜びがあるからです。もう一つは、受け取った側が繰り返し読むことができるからです。

鈴木

今の石川さんの発言を聞いて、中学校に入学するときに、入学のお祝いをくれた祖父母に手紙を送ったときのことを思い出しました。今でも、祖父母に会うと、あとき手紙をもらってうれしかったことや何度も読み返して元気をもらっていることなどを話してくれます。手紙にしかないよさがあるのではないかと思えます。

石川

私は、相手の都合を考えるとという点でも、手紙がよいと思います。私は、班長として、訪問先に事前の打ち合わせの電話をかけたのですが、担当の方とお話ししようにもなかなか電話がつながりませんでした。とにかく忙しくされていることが分かりましたので、お礼の電話をかけて、お仕事の手を止めてしまうことは申し訳ないように思います。

司会

②今、石川さんから違った視点の意見が出てきましたが、このことについてどのように思いますか。

山田

手紙だと、都合に合わせて、読めるときに読んでもらうことができますね。それに、職場体験に関わってくださった全ての方に読んでもらうことができると思います。電話だと担当の方としかお話できないのではないのでしょうか。私が体験する職場では、担当の方以外に、十人ぐらいの方が関わってくださることになっているので、全ての方に読んでもらえる手紙のほうがよいのではないかと思います。

田中

相手の都合を考えるとすると、手紙以外に電子メールという方法もあると思います。電子メールなら、電話と違って、あとから何度でも読み返すこともできます。

司会

音声ではなく、文字で表現するという点では、手紙と電子メールは同じですが、今回のお礼の気持ちを伝える方法としては、どのように考えますか。

石川

今回の職場体験では、どの職場も、お礼する側もお礼を受ける側も一人ではないので、電子メールという方法は適していないのではないかと思います。それに、電子メールは、届くまでに時間がかかる手紙と比べて、すぐに相手に届くというよさがありますが、手軽さゆえに十分にお礼の気持ちが伝わりにくいともいえると思います。

鈴木

書く内容については、電子メールも手紙も同じにすることはできると思います。ですが、電子メールでは、誰が書いても同じ文字で個性が出せないのに対して、手紙は手書きの文字に個性が表れます。手紙のほうが、受け取った側もうれしく感じるのではないのでしょうか。最初に、小学生からお礼の手紙をもらってうれしかったという話をしましたが、心をこめていいねに書いた文字から相手の気持ちが伝わってきたからです。

一 【話し合いの様子の一部】の——線部①「先ほど、田中さんが、『電話のほうが、自分の気持ちが相手に伝わりやすい』

と言いましたが、それはどういうことでしょうか。」という発言について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 田中さんの発言の中で納得できなかったことについて、発言の要点を明らかにするために質問をしている。

2 田中さんの発言の中で理解できなかったことについて、発言の意図を確かめるために質問をしている。

3 田中さんの発言の中で関心をもったことについて、さらに詳しく知るために質問をしている。

4 田中さんの発言の中で共感したことについて、共通点を明確にするために質問をしている。

二 【話し合いの様子の一部】の——線部②「今、石川さんから違った視点の意見が出てきましたが、このことについてどのように思いますか。」という司会者の発言は、話し合いの中でどのような役割を果たしていますか。次の1から4までの中から、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 話し合いの進行の仕方を提案する役割。
- 2 参加者の発言の要点を確認する役割。
- 3 参加者の発言の不足を指摘する役割。
- 4 話し合いの方向を転換する役割。

三 このあと、各グループの話し合いの結論を共有するために、各グループの代表者が報告することになりました。あなたが鈴木さんのグループの代表者なら、どのように報告しますか。報告する内容をまとめた、次の文章のA・Bに当てはまる言葉を、【話し合いの様子の一部】の言葉を用いて書きなさい。ただし、Aは五字以上、十字以内で、Bは十字以上、十五字以内で書くこと。

私たちのグループでは、お礼の気持ちを伝える方法は手紙がよいという結論になりました。手紙がよいと考えた理由には、電話と比べて、もらったときの喜びが大きいこと、A、自分の都合に合わせて読めること、関わってくださった全ての方が読めることがあげられます。さらに、手紙は電子メールと違って、Bがあげられ、その違いからも手紙でしか味わえないよさがあると考えたからです。

井上さんの学級では、国語の時間に、「食品ロスについて」というテーマで意見文を書いています。今日の授業では、自分たちが書いた意見文をグループで読み合い、付箋を使ってアドバイスを伝え合います。次は、同じグループの【井上さんの意見文の下書き】と【岡本さんの意見文の下書き】、友達が書いた【アドバイスの一部】と岡本さんがアドバイスを受けて探した【資料】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【井上さんの意見文の下書き】

皆さんは、「食品ロス」について、どのくらい意識しているだろうか。「食品ロス」とは、売れ残りや食べ残し、賞味期限切れなど、まだ食べられるのに捨てられている食品のことだ。現在、さまざまな店で、食品ロスを削減するための取り組みが行われている。

先日、家族で外出をしていたとき、昼食を買うためにコンビニエンスストアに寄った。パンが並べられている棚の前に立つと、棚が左右に分けられ、左側の棚には、値引きされたパンが並んでいた。買おうと思っていたパンが値引きされていたので、少しでも安いほうが得だと思い、迷わず商品を手に取った。棚をよく見ると、食品ロスの削減に協力しようという表示があった。食品ロスの削減に少しでもこうけんできているのだと思うと、うれしい気持ちになった。店内を見わたすと、「てまえどり」をしようという表示もあり、食品ロスの削減に向けた取り組みが進められていると感じた。

スーパーマーケットでも、期限切れが近づいた商品を値引きして販売している。その他にも、売り方を見直す取り組みが行われている。

食品ロスの削減のために、私たち消費者にできることは何だろうか。私は、むやみに新しいもの、新せんなものを求めすぎないことが大切だと思う。牛乳パックの消費期限の表示を見て、棚の奥から選んで買う人が多くなると、どうなるだろうか。手前の牛乳はいつまでも残ることになる。私は、すぐ食べるのが分かっている場合は、値引き商品を買ったり、棚の手前にある商品を買ったりすることを意識したいと思っている。

食品を販売する側と消費者のどちらも食品ロスの削減を意識すること。それが、食品ロスの問題を解決することにつながるのである。

【岡本さんの意見文の下書き】

ザザザザー。大量に捨てられる恵方巻きの映像をニュースで見たとき、思わず、「もったいない。」と声をあげてしまった。節分に縁起物として食べる恵方巻きやクリスマスケーキなど、時期が限定される商品は、時期を一日でも過ぎると大量に捨てられる。私も、恵方巻きのニュースで食品ロスの問題を意識するようになったが、スーパーマーケットなどの小売店では、毎日売れ残りなどが食品ロスとして出ているのだ。

ところで、私たちの家庭ではどうだろうか。食品ロスは、決して食品メーカーやスーパーマーケットだけの問題ではない。食品ロス^①は、事業活動をもたずして発生する「事業系食品ロス」と各家庭から発生する「家庭系食品ロス」に分けられ、^①家庭でも食品ロスの問題に取り組まなければ解決にはならないと考える。もったいないという状況は、家庭でも毎日起きているのである。

では、私たちは、毎日の生活の中で、どのような取り組みができるのだろうか。食品ロスについて、インターネットで調べていると、消費者庁が発行した資料の中に、「徳島県で行った調査の結果」が示されていた。私たちが住む徳島県のデータということもあり、とても興味深いものだった。その資料には、まだ食べられるのに捨てた理由として、「一位 食べきれなかった」「二位 傷ませてしまった」「三位 賞味期限・消費期限が切れていた」と書かれていた。この結果から、「作りすぎ」「買いすぎ」が食品ロスの大きな原因になっていることが分かった。^②私は、これから、まずは買いすぎないことを意識したいと考えている。

日本では、食べられるのに捨てられる食品の量が年間五百二十三万トンと推計されている。これは、日本の人口一人当たり毎日おにぎり一個を捨てている計算になる。現在、日本の人口が約一億二千四百万人であることを考えると、食品ロスがいかに大きな問題であるか想像できるのではないだろうか。食品ロスの問題は、私たち一人一人が意識して取り組んでいかなければならないのである。

【アドバイスの一部】

田村

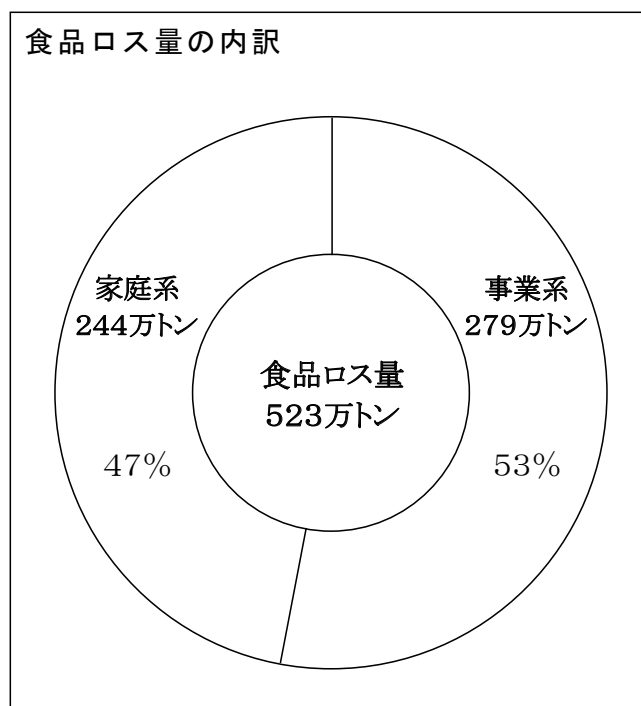
「家庭でも食品ロスの問題に取り組まなければ解決にはならないと考える。」と考えたのはどうしてなのか、理由を書いたほうがよいと思います。理由を書くことで、家庭で取り組むことの大切さが伝わるのではないでしょうか。

中川

「私は、これから、まずは買いすぎないことを意識したいと考えている。」とありますが、買いすぎないために、どのようなことに取り組むのかを具体的に書いたほうがよいと思います。

【資料】

食品ロス量の内訳



(農林水産省及び環境省「令和3年度推計」より作成。)

井上さんは、交流のあと、【井上さんの意見文の下書き】の〰線部「その他にも、売り方を見直す取り組みが行われている。」という文を、「その他にも、食品ロスを減らす行動について店頭ポスターなどで知らせたり、通常の価格では販売できない商品を集め、格安セールを行ったりするなど、売り方を見直す取り組みが行われている。」と書き直しました。書き直した文から、どのようなアドバイスが付箋に書いてあったと考えられますか。付箋に書かれていた内容を示した、次の文の□に当てはまる言葉を、【井上さんの意見文の下書き】の言葉を用いて十五字以上、二十字以内で書きなさい。

売り方を見直す取り組みについて、

□

以外の例も書いたほうがよいと思います。

二 岡本さんは、田村さんからの【アドバイスの一部】を踏まえて、——線部①「家庭でも食品ロスの問題に取り組まなければ解決にはならないと考える。」のすぐあとに、このように述べた根拠を書き加えることにしました。あなたなら、【資料】を見て、どのように書きますか。次の条件に従って書きなさい。

条件 「なぜなら、食品ロス量の内訳を見ると、」に続けて書き、二十五字以上、三十字以内で書くこと。

三 岡本さんは、中川さんからの【アドバイスの一部】を踏まえて、——線部②「私は、これから、まずは買いすぎないことを意識したいと考えている。」のあとに、意識することを具体的に書き加えることにしました。岡本さんが考えた、具体的な取り組みの例として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 すぐ使うことが分かっている食品は期限の近いものを買ったり、特売品はできるだけまとめて買ったりすること。
- 2 すぐ使うことが分かっている食品は期限の近いものを買ったり、こんだてを考えると必要なものを買ったりすること。
- 3 冷蔵庫にある食材を確認してから買い物にいったり、特売品はできるだけまとめて買ったりすること。
- 4 冷蔵庫にある食材を確認してから買い物にいったり、こんだてを考えると必要なものを買ったりすること。

四 井上さんたちは、読み手に分かりやすく伝えるための工夫をして意見文を書いています。【井上さんの意見文の下書き】と【岡本さんの意見文の下書き】に共通している工夫として適切なものを、次の1から5までの中から全て選びなさい。

- 1 敬体で丁寧^{ていねい}に述べることで、読み手に親しみを感じさせている。
- 2 最初と最後に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。
- 3 読み手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりしている。
- 4 伝えたいことを印象付けるために、具体的な数値を使って説明している。
- 5 具体的な体験や見聞を入れることで、伝えたいことを身近に感じさせている。

4

高橋さんの学級では、国語の時間に、「空をつかむまで」という作品について学習しています。次の【本の一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本の一部】

(関口 尚「空をつかむまで」より。一部省略等がある。)

-
- 1 直喩 { 線部に使われている表現の技法の名称を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 2 反復
- 3 倒置
- 4 体言止め

【高橋さんの言葉の手帳】

4月17日

- ・けれども、体はよろこんでいる。もっともっと動こうぜ、とぼくに呼びかけてくる。
- ・うまく言葉にできないけれど、体自身がもっと自分を試したがっている。
- ・

書名 「空をつかむまで」

著者名 関口 尚

☆感想

「最初は軽く走ってそのまま終わりにするつもりだった。」とあるように、そこまで走るつもりがなかった「ぼく」が、いつの間にか思いっきり走るようになった場面がとても気に入った。その中でも、特に、3か所の表現が印象に残った。「ぼく」が、自分の意思で走るのではなく、まるで体につき動かされているかのようで、巧みな表現だと思った。

二 高橋さんたちは、一年生のときから、心に残る言葉や気になる言葉に出合ったら、自分の表現に生かせるように、「言葉の手帳」に書き留めるようにしています。次は、【高橋さんの言葉の手帳】です。を、感想を参考にして、【本の一部】から一文で抜き出して書きなさい。

にどの言葉を書き留めたのか

三 【本の一部】では、二年ぶりに真剣に走った「ぼく」のすがすがしい気持ちが情景描写を通して表現されています。その気持ちが表現された、連続した二文を、【本の一部】の中から探し、初めの五字を書きなさい。

四 次の1から5までの猫田の心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えるとどのようなになりますか。1から5までを適切に並べ替えて書きなさい。

- 1 走る優太の姿を見て、からかってやろうという気持ち。
- 2 優太が戻ることを、おもしろくないと思う気持ち。
- 3 堂々とした優太の発言を聞いて、うろたえる気持ち。
- 4 優太の予想外の返事にがっかりする気持ち。
- 5 優太の返事に安心したものの、気が気でない気持ち。

五 — 線部「走り去る猫田を見送りながら、何度も自分で言った言葉を噛みしめた」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 猫田と別々の高校でサッカーをすることしたら、実力の違いを見せつけてやろうと競争心を高めている。
- 2 猫田と別々の高校でサッカーをすることしたら、無理に今頑張らなくてもいいと自分をなぐさめている。
- 3 猫田と話すごとで、弱い自分と向き合えた自分の強さに気づき、もう一度頑張ろうと決意を強めている。
- 4 猫田と話すごとで、弱い自分の存在に気づき、未来のためにも今から頑張ろうと自分を奮い立たせている。

六 次の文章は、高橋さんが、この作品の表現の工夫について、自分の考えを書いたものです。あなたなら、次の【高橋さんの文章】の□にどのように書きますか。□に当てはまる言葉を、【本の一部】の中から一文で抜き出して書きなさい。

【高橋さんの文章】

この作品の「ぼく」と猫田との場面を読んでいるとき、一年生のときに「星の花が降るころに」で学習したことを思い出した。主人公の「私」が、銀木犀ぎんもくせいの花をばらばらと落とす行動や銀木犀の木の下をくぐって出る行動から、気持ちの変化を読み取ることができると学んだ。

この作品にも、「ぼく」の気持ちが変わったと分かる行動描写があり、読んでいておもしろいと思った。逃げるようにサッカー部をやめ、負い目を感じている「ぼく」が、猫田に話しかけられる場面で、「思わずぼくは自分の左膝に手を当てた」という表現が見られる。膝が痛いふりをするので、傷つけられないようにしてきた「ぼく」の、自分を守ろうとする気持ちが表されていると感じた。その「ぼく」が今までの自分を振り切る姿が、□の一文で表現されていると思った。これからも、同じものや場所が出てくる場面に着目して、場面や描写を結び付けて読みたいと思う。

